

第3回名張市総合計画審議会議事概要

日時：平成15年11月24日（月／振替休日）午後1時30分～午後4時00分

場所：市役所庁議室

委員出欠状況：欠席...稲沢委員、竹田委員

市・事務局：総合企画室 山口室長、高嶋主査、福田、栞山

1. 報告・説明事項

(1) 第2回審議会に関する報告

(事務局)

議事概要について

- ・ 第2回審議会議事概要について、**資料1**に基づき、説明を行う。
- ・ 第2回議事録の内容について、不都合のある場合は、ご連絡をお願いします。

要点とその対応について

- ・ 第2回審議会の要点とその対応について、**資料2**に基づき、説明を行う。

産業面における意見（リスト）について

- ・ 第2回審議会の産業面における意見について、**資料3**に基づき、説明を行う。

(2) 中期財政見通しについて

(事務局)

- ・ 中期財政見通しについて、**資料4**に基づき、説明を行う。

(3) タウンミーティングの実施について

(事務局)

- ・ タウンミーティングの実施について、**資料5**に基づき、説明を行う。

2. 審議事項

(1) 新しい名張市総合計画基本構想（原案）について

(会長)

- ・ **資料1**の議事概要については、後でご覧下さい。
- ・ **資料2**について、ある理屈でこう判断したというものや今後の議論で深めて下さいという留保付きのものがありますが、自分の発言で抜けているものもあるかもしれませんが、自分の発言がどのような対応になったのか、お目通しいただいた上で、今日の審議に入りたいと思います。
- ・ 産業のことについて、**資料3**で整理されていますが、前回の私たちの議論した内容が項目別になっていますので、これも踏まえて今日の議論ということになり

ますが、事務局の方で資料が添付されています。

これをどう理解するかという説明はなかったのですが、トレンドとして、製造業はリストラをやりながら生産額を確保しているという状況で、実質的には小売業や卸・サービス業が生産額を伸ばしていて、労働力の吸収という点でも伸びていることから、小売業や卸・サービス業が名張の雇用の吸収源になるのではないかと考えたようです。これを踏まえながら、今日の議論に入りたいと思います。

- ・ 今日、前回の「まちづくりの基本理念」までを踏まえながら、「まちづくりの基本方向」「土地利用構想」までを視野に入れた議論をしたことになるので、今日は「まちづくりの戦略」まで、議論をしたいと思います。
- ・ 前回、あまり議論のできなかった“地域づくり”とは、どのような環境で、どのような暮らしを立てていくのか。それを具体的にどうしていくのか、収入も含めた“なりわい”や、どのような生活をするのかということまで考えて、どのような視野で、名張の現状から将来の名張をどのような方向で伸ばすべきかという方向で議論したいと思います。

(委員)

- ・ **資料2**の5頁に記載されている「(製造業の誘致には)現在も取り組んでいるが極めて困難であり、このことを掲げても実現できる可能性は低いと考える。」というのは、確かにそのとおりですが、努力をすべきである。実現の可能性がないから、(取り組まないというのでは)市民の納得は得られない。
- ・ 商業やサービス業で雇用を吸収するといっても、それらは地元業者ではないので、市の税金を見込むことができない。また、医療・福祉などの分野についても、原資となるのは保険等の公費なので、名張市以外の方は別として、総額としての市民所得は増えない。雇用の創出はあっても価値の喪失である。
- ・ 製造業は、市外や海外からお金が入ってくるので、市の富が増える。反対に、商業は市民が消費して、外部の売上になってしまうので、市の富が増えない。
- ・ 製造業の誘致が難しいのは分かっているが、新しい産業を興すとか、名張独自の産業で起業を奨励するとかの策を講じないと、段々ジリ貧になってしまう。
- ・ 名張市にはバイト先がないので、榛原町や上野市で暮らす皇學館大学の学生がいると聞く。

(会長)

- ・ 産業の問題を供給側から議論された訳ですが、もうひとつの考え方としては、どこでどんな働き方をするのかという議論もできる訳です。

(委員)

- ・ どこについて、議論されているのか、会議の進め方がわかりにくい。

(会長)

- ・ 基本構想の12～13頁あたり、まちづくりの基本方向について、議論をしています。どんな名張にするのか、具体的にどんな方向を目指すのか、“なりわい”を含めた名張のあり方についての議論です。
- ・ 前回、「生活都市」という議論が中心で、“なりわい”という視点が抜けているという意見があったので、“なりわい”を含めた名張の将来方向を議論したいと思います。具体的なことは19頁以降において、“なりわい”を含めた暮らしぶり、将来の名張の姿や市民の暮らしを議論の発端にして、名張の方向性が「生活都市」で良いのかどうか考えたいと思います。

(委員)

- ・ 基本構想13頁の(1)～(3)は、これで良いが、地価の下落による大阪市内のマンションや奈良県下の住宅の出現により、若者が都会に出ていくと、名張には年寄りだけが残り、逆のピラミッドが形成されることになりかねないので、雇用を吸収するという意味で、産業という柱が必要だと考えます。

(委員)

- ・ 中期財政見通しについては、市町村合併のときに、私たちが盛んに言ってきたことなので、今更びっくりはしないが、投資的経費がなく、何も投資が出来ないというのがはっきりと見えてきた。まちづくりの基本方向のなかで、「福祉の理想郷づくり」という基本理念がありますが、福祉に一番お金がかかるという時代を迎えるなかで、極めて悲観的な結果だと感じている。
- ・ そういったなかで、財政的な面でいかに歳入を増やすかということについて、産業面におけるビジョンが乏しいことから出てきた意見だと思います。
- ・ 製造業の状況は暗く、名張で製造業を起こそうとしても、さらに暗い状況です。何故かという、日本の製造業自体がバブルの時はGDPの35%を占めていたが、現在は20%になり、さらに低下している状況です。製造業自体が空洞化に向かっています。製造拠点が、中国やインドに移っているので、日本で製造業を伸ばしていくのは困難です。名張では更に厳しいと思われます。
- ・ 新しい滝之原工業団地についても、計画では4つの工場ができることになっていますが、まだゼロです。値段を下げても、中国をはじめとした海外とでは比較になりません。国内でも、坪1万円位の工業団地が沢山あります。
- ・ そこで、何らかの施策を講ずる必要があります。伊賀地域には、製造業であれば“伊賀メディカルバレー構想”があります。これは畿央地域全体を対象に主張してきたもので、上野の“ゆめぼりす”あたりは、そういった形になっています。ついては、名張へも取り込んで、関連企業の誘致ができないかという模索はありますが、そこで大事なものは“産・官・学”の連携が必要であり、特に“官”“学”の支援が必要であり、行政が中心になるべきだと思います。

(委員)

- ・ 地域間競争のなかで、何を売りにするのかということですが、“暮らしぶりを体験する”ということにあると思います。“暮らしぶりを体験する”というのは、ひとつは短期的な暮らしぶりを体験する“観光”で、もうひとつは“そこに住む”ということで、これまでの製造業の誘致ではなく、大阪で仕事をしてきた人が名張で仕事をして、収入が300万円に減少したとしても、余った時間で農業に従事して100万円の収入を得るといったことが、できるのではないかと考えます。それが観光資源になったり、農業の担い手になったり、人口の維持につながったりするのだと思います。
- ・ 市町村合併の際に、名張市は生活の場で、上野市は働く場ということが言われていましたが、単独で市政を継続するとしても、この考えは成立すると思いますし、そうすることで、名張の人口は維持・増加していけると思います。

(会長)

- ・ 段々と、働くことと住むことの融合のような意見になってきましたが...

(委員)

- ・ 市議会の視察で、全国各地を訪れると、駅を降りて色々と感じることがあります。名張駅を降りても、特別感ずるものがなく、上本町や本町の商店街もあるが、駅との間に空間があるので、夜、駅を降りてもどこに“まち”があるのかわからない。
- ・ 名張市では、名張駅から鴻之台を経由した所、名張駅桔梗が丘線を通じて、その周辺が名張市の中心市街地という観点のなかでまちづくりが行われている訳ですが、鴻之台の国道165線周辺地域が中心市街地として発展していくには、体育館周辺を別として、工業専用地域があります。この三ツ池工業団地をはじめ、国道165線沿いの工業専用地域を何とか考えていかなければならないということは、これまでかねがね議論されてきました。財政の厳しい折では、何ともならないので、国道165線沿いの工場だけでも滝之原工業団地に移転し、中心市街地の形成をはかるといったことも、ひとつの基本ではないかと思えます。そういったことも踏まえて、総合計画を練っていただかなければ、自信に満ちた名張市づくりができないと思えます。

(会長)

- ・ 中森さんの「暮らしぶりを体験する」というような産業と生活の接点で、新しい雇用を創っていくというようなことが、基本構想13頁の(1)~(3)に含まれていますか。

(委員)

- ・ 少し意味あいが違うようにも感じますが、もしかしたらもう少し細かい話のような気がします。

(会長)

- ・ 従来型の産業誘致のような、柱を立てるべきかという結論は、すぐに結論が出ないと思うので、最終的に戻る形にしたいと思います。

(委員)

- ・ 沖縄で、東京の電話番号案内がされていますが、重厚長大な産業ではない新産業を含めた産業の振興をはかる必要がある。確かに、医療分野の産業は、付加価値も高く、技術的なことがあるので、簡単に海外には負けないと思いますが...“産官学”が一体となった新産業の創出を含め、産業振興の柱を立てるべきだと考えます。

(会長)

- ・ 私は、現在、四日市市の臨海部の再生プロジェクトに参加していますが、将来、産業構造が変化しても、四日市市は「産業都市」の旗は降ろさないで、新しい質的転換を図ろうということです。今、海外との競争ではなくて、むしろ国内の競争で負けそうだということです。例えば、茨城県とか、岡山県とか、同じ企業であっても、大工場地帯の中のどこに、新しいプラントを持っていくのかで負けそうだということです。だから、四日市事業所にいる所長さんも、本社に行って国内競争で勝ち取らないと、四日市事業所は残らないという危機感をもっておられます。会社の方針で、ある部分を鹿島に持っていくとなると、当然、空地が出るわけです。それをどうしようかと、手をこまねいているのではなく、今ある資源、要するに研究者とか、施設プラントを活かして、そこでアイデアをもった人がスピンアウトして、新しい会社を興してもらおう種地にしようというものです。そんな議論をしています。
- ・ 何が言いたいのかというと、資源のないところに新しいものを持ってくるとするのは、相当、特殊な条件がないと成立しない。個々の名張にある資源とは何か、京都のノーベル賞をもらったような人的資源とか、すごい世界的な資本が来るといようなことがあれば、新産業が出るかもしれませんが、あるいは北川前知事のように、30億円を出せば、液晶工場が来るといことはあるかもしれませんが。それがなければ、地域の資源の中からしか生まれてこないの、何が資源なのかという議論をしたいと思います。中森さんは、名張市の資源は“今いる人”と“雄大な自然”だと、ベッドタウンという歴史がありますから、大阪に片足置いているかもしれませんが、もう一方の片足との両方で稼いでもらうと一定の収入があるとか、逆に収入がそこそこでも、多様な暮らしがされている方が、実入りがなくとも、豊かなんだという、お金の換算できない豊かさのようなものを評価して、それが名張の売りだという新しい暮らしぶり、地域づくり、個性づくりをやっていけばどうかというご提案だと思います。それで、13頁に書かれているような内容を豊かにすることで、中森さんの意見は対応可能かもしれないということ

した。

(委員)

- ・ 基本構想 12 頁の図の矢印は、上下が逆ではないか。

(会長)

- ・ 表現の問題だと思いますが、目標を上を書いて、人権と人間尊重は基盤だから下に書くということで、よろしいと思いますが...

(委員)

- ・ 「新しい公」の説明には、「...行政との協働によって...」という表現を入れるべきである。住民サイドだけでなく、行政との協働で「新しい公」を創りますという解釈の方が、受け入れがよいのではないかと思います。

(会長)

- ・ あまり詳しくはないのですが、「新しい公」というのは「市民的公共」なので、自立した市民が互いに尊重して守っていくというようなものが「新しい公共」で、行政の支える「大きな公共」の両方が合わさって、「これからの公共性」が確保できると理解していますので、「新しい公」を行政との協働とってしまうと余計混乱してしまいそうな気がします。

(委員)

- ・ 「新しい公」は必ずしも「官」でないということで、「公」という言葉は、元々、大化の改新のときの「公地公民」という言葉から来たもので、「官」という意味ではなく「社会全体」という意味だと思います。

(会長)

- ・ 市民というところで、新しい公共が本当は書いてあって、行政のところで市民起点の姿勢が書いてあって、法の執行者としてのやるべき公共があって、両者の合わさったところに、「新しい公」が生まれるということで良いのですか。

(委員)

- ・ 上の図式では、市民と行政が支えあって、それによる協働という意味になっています。そう考えると、新しい公を説明する文章が合わない。

(会長)

- ・ どうすればよいか提案してもらえますか。前は「協働」という言葉がないということで、「入っています」ということで終わったのですが...

(委員)

- ・ 前は、新旧比較の表をみていたので、「協働」という言葉がないと意見しました。

(会長)

- ・ 「公共」というのは、先程、委員が説明されたとおりだと思います。お上が担う「公共」だけではなく、市民が認めたみんなで、実現すべき「公共」もある。

これまでのお上の「公共」が従来の行政で、これからは市民起点の市政にしようというのが、その反省だと思います。両者が協力して、「新しい公共」ができるという図式になっているのですが、まずいでしょうか。

(委員)

- ・ 基本構想 12 頁に書かれている「新しい公」という言葉は、同じ意味の 3 つの文章がダブっているようなので、要らないのではないかと、特別に意味があるのなら、別だが...

(会長)

- ・ 今のご提案は、図式の矢印の中の「新しい公」を取って「協働」ということですか。「新しい公」を説明は、ひとつの文章が長すぎるかもしれません。

(委員)

- ・ 5 行目の「...協働による」までを生かして、「新しい公」を確立し力を合わせて、」までは、要らないのではないかと思います。

(会長)

- ・ 最後の政策大綱で関連しているように思います。そこで、それぞれの役割分担について、書かれているように思います。

(委員)

- ・ 3 つは微妙に違うのかもしれません。それぞれに意味があるように思います。

(会長)

- ・ まだ、学問的にも議論の途中なのかもしれません。こういったことを高らかに謳うことが、名張の特徴かもしれません。議論で納得できるなら、入れればよいと思います。
- ・ 今の議論を踏まえて、図の方は「新しい公」を抜いて「協働」として、「新しい公」概念を本文の中で短い文章で表現するという事で、事務局の方でお願いします。

(委員)

- ・ 基本構想 13 頁の「...自由に社会参加でき...」という表現には、人間関係や自分に必要な職をもつという意味が含まれるのであれば、産業ということも理解できるのではないかと思いますので、確認をお願いします。

(事務局)

- ・ 人が人として、尊厳を持って生きていくということになりますと、ひとつは自分の夢や考え方によって自己実現をはかっていくという側面があります。もひとつは、社会・地域との豊かな関わりを自由に持つことができるということで、バリアフリーの考え方も含めて、地域や職場を含めて、社会参加しながら様々な価値を生み出していくことが、できるような地域社会を目指そうという意味です。
- ・ 産業ということでは書いていませんが、結果として、暮らしを高めていく、名

張の魅力を高めていくことが、産業につながっていくと考えています。例えば、(1)であれば、福祉・医療の問題が結果として、今後の新しい産業展開につながっていくと思います。(2)であれば、農業・林業が重要な要素になっていくと思われます。(3)であれば、前回もご議論をいただきましたが、まちとしての魅力を高めていくことが、観光につながり、文化を磨いていくことが観光や色々な展開につながっていくと考えています。

(会長)

- ・ 先に委員が言われた、新産業の創出を含めた産業振興のようなことが、12~13頁あたりで読み取れないとまずいと思います。

(事務局)

- ・ 基本構想13頁の(3)は産業を含めた整理を行い、3つの方向では「文化」としますが、「文化」には「まち」も含めるという考え方を示して、まちと文化を創っていく、いきいき生活都市ということで、まちの要素として快適性・安全性・利便性・活力というか、いきいきと人が活動しているというイメージも併せて、“まちと文化を共に創る、いきいき生活都市”ということで、当然まちというなかで、産業振興、都市産業、商工業、観光も視野に入れて表現しています。さらに、明確にするため、3行目あたりに、経済的な側面も含めて「豊かさ」等の表現を入れてはどうかと考えます。

(委員)

- ・ 12~13頁の表現はこれで結構なので、リーディングプランに入れればよい。

(会長)

- ・ 計画としては、体系づけがないと説明できないと思いますので、文言については、また振り返りたいと思います。
- ・ 先程の事務局の説明だけでは、なかなかそうは読めないと思います。文化に関連した産業というのはありますが...
- ・ (1)なかには、シルバービジネスのようなものがあるかもしれませんが、ニュービジネスの芽は入っているが、委員の意見のような製造業系の新しい産業は入っていませんので、それをどうするかについては、名張のシーズが何なのかを考えながら、リーディングプランの議論に入りたいと思います。文言については、今日の議論を踏まえながら、提案を事務局で考えて欲しいと思います。

(委員)

- ・ リーディングプランのなかの「市民活動推進プラン」で掲げられていましたが、私は、乳幼児を抱えながら、子育て支援のボランティアをしています。何故、ボランティアをしているかというと、自分たちの子育て環境があまりに整っていないからで、できれば子育てのひと段落したお母さん方にこういった活動に取り組んでもらいたいのですが、現実には不景気のなかで、住宅ローンや教育費のため

に、パートをやらざるをえない状況ですが、35歳を過ぎると雇用がありません。確かに大型店はありますが、不況になるとどこかへ行ってしまい、30~40代の主婦の雇用は無くなってしまいます。名張市では、子育てのひと段落した女性の能力を活かしきれていないと思います。それで、雇ってもらえるところであれば、どこへでも（働きに）行くという現実があります。

- ・ 市民活動推進プランで、能力のある女性を雇用し、引き寄せられないかと考えています。そうしないと、30~40代のボランティアが激減してしまいます。

（会長）

- ・ コミュニティビジネスとして、子育て後の人材を活かす、育てる活動人材センターとか、時間預託といった表現でよろしいですか。

（委員）

- ・ ある程度の保障がないと、人材は集まらないので、地域通貨だけでないしくみづくりが必要だと思います。

（委員）

- ・ 女性は地域で暮らしているので、老後にボランティアに参加する人が多いが、男性は趣味に入って、ボランティアに参加する人が少ない。名張市は、定年後の男性に声をかけて、労働ボランティアとして引っ張り出して欲しいと思います。

（委員）

- ・ 先日、神戸の「しあわせの村」を視察してきました。そこでは、健常者も障害者もともに色々なことができるようになっています。この総合計画をみるとフランス料理を毎日、食べているような気がします。言葉で理想郷を唱えるだけでなく、「しあわせの村」のように現実の理想郷を作ることが大事である。
- ・ 現実に生活している市民は、いきいきとした生活よりも、安心できる生活を望んでいる。総合福祉センターに行くバスは、週に1台しかないのが現状である。

（委員）

- ・ 人・自然・文化に産業を追加してはどうか。

（会長）

- ・ 最終的に結論を出したいと思いますが、選択の時代なので、集中的に取り組むことが基本ベースになっていると思います。
- ・ 名張の資源は“多様な人材”“自然”であり、それを皆さん理解されているからこそ、先程の中森さんのような提案が出されるのだと思います。
- ・ よって集中しすぎて、産業振興やハンディキャップのある人、青少年育成といったことが、キーワードとして表に挙がっていないので、それらを復活させるかどうかという議論になっています。
- ・ 行政はこれから、調整役・支援役という役割を担うので、地域づくり推進プランにより、地域予算の導入など地域の自主的なまちづくりについて、書かれてい

ますが、不十分であれば、次回に具体的な提案をお願いします。

(委員)

- ・ 「水と緑のガーデンシティープラン」では、名張川について、触れられていますが、名張は川のまちだと思います。地元の方には、川の重要性や価値が認められていないようです。川を活用して、リバーツーリングや川のまちづくりが全国で行われています。名張川もそれに値する価値があると思います。
- ・ 社会基盤の整備というものが必要になりますが、これは必ずしもハードの整備だけではなく、ソフトとハードの両方の整備が必要だと思います。例えば、名張地区のなかに梁瀬水路という水路、今、城下川と言われていますが、まちの中を網の目のように、水路が流れておりましたが、約半分くらいが暗渠化されています。網の目のように、水路が流れているというのは、まちに独特の潤いを与えます。今、モーターレーゼーションが進んで、全国のまちで、かつて水路であった所を暗渠化して、道を広げたというのが多いのですが、今、これを見直して、もう一度、暗渠化した川を開渠にしようということで、まちづくりを進めているところがあります。名張地区の空洞化が進んでいますが、空洞化対策と併せて、もう一度、水と緑のまちを再生・整備する、それによって“にぎわい”を取り戻すことができるのではないかと思います。

(委員)

- ・ 商工会議所においても、名張地区内の川と水路の見直しを提案していますので、基本構想に取りあげてもらおうとありがたいです。

(会長)

- ・ 「農のある暮らし、スロータウンプラン」で、堀江さんが意図されている地消地産のようなものは、感じ取れますか。

(委員)

- ・ 「農のある暮らし、スロータウンプラン」からは、私の意図する地消地産の考えは、感じられない。
- ・ 農業は、所得を伴わないということで、衰退するに至った。担い手という言い方をして、半世紀近くになるが、未だに解決されていない。6~7年前に認定農業者の制度が導入されたが、それでも後継者がいないという状況です。名張を見ても、土地利用型ということでは後継者がいない。
- ・ 文面では、きれいな水と緑という非常によい姿の田園を想定されているように思いますが、基盤整備の行われた農地でも、雑草の生えているところがあります。明日、私がリタイヤしたら、私のところも雑草が生えるわけです。ブドウ産地でも、鉄骨がそのまま、手入れされずに雑草の生えているところがあります。このままでは、農地が荒れて見られない姿になってしまう。
- ・ 美しい田んぼを頼りにせずに、時間が経つと農地は荒廃していくということで、

30a以上の農地転用は、県知事が行うということですが、市町村長に権限移譲するということがあるわけですが、前回は申しあげたように、土地利用・農地行政本気でやらないと今申しあげたような状況になります。

- ・ 昨年の農家の所得が870～880万円で、そのうち農業所得は55～56万円で、1割ないというのが、三重県の姿です。だから、後継者ができるわけがない。したがって、今農業をやっている70代が倒れると、雑草が生えてくるということですから、その農地を農地行政でどうするのか、考えてもらいたい。それを地産地消ではなく、地消地産にしたい。そういうことで、努力していますが、放置すると荒廃する。これをどうするかということなのです。

(会長)

- ・ 農地を残すには、3つの方法があると思います。ひとつは規制によって残す。雑草が生えてもいいから、農地は農地ということになります。それでは、今の言われたように雑草が生えるだけです。

もうひとつは、使って残す方法です。ひとつは儲かる農業で、もうひとつは、儲からないでも中森さんが言われたような非農家の人を遊びというか、余暇でいれる。もうひとつは土地活用で残すというのがあります。ここではアグリパークとか、レジャー系の話と「食」と「農」のネットワーク、地産地消という形で、それなりに使おうという話が入っています。人については、地産地消では、農家が農地を使うという話で、もうひとつはボランティア、里親という制度で非農家の人を入れていくという話が一応入っています。

- ・ ただなんとなく、全般を通じて、これでいいのかと感ずるのは、リーディングプロジェクト全体が、芽があるのかということで、芽のあるような話がここに位置づけられていると、実践的になると思います。どこかで勉強してきたようなキーワードだけだと“きれいごと”に終わってしまうかもしれないと思います。皆さんには、近所でこういうことをやっているから、是非、この方向性を入れていきたいというものがあれば、次回ご提案いただければと思います。

(委員)

- ・ 「能楽のふるさとづくりプラン」で、能楽のことが書かれているが、文化の継承という視点を重視する必要があると思うので、学校教育に能楽を取り入れてもらいたい。上野市では芭蕉を教育に取り入れて、俳句づくりをしている。奈良県の大淀町では、子どもたちに能楽の囃子方の体験や実際に仕舞をさせている。

(委員)

- ・ 美旗地区のまちづくり計画の大きな理想のひとつで、今から10年程前に、近鉄美旗駅に特急を停車させて欲しいとお願いをしたら、長谷寺の観光客のために特急の臨時停車するので、それと同じように、美旗地区の美旗古墳群や初瀬街道のまちづくりを観光ルート化し、ぶどう農家が沢山あるので、ぶどうを使ったワ

インを造るとか、ぶどうを製品化していけば、どんどんお客さんがやって来ます、ただし、トイレも道も何もないところにはお客さんはこられませんということでしたので、と言われた。それをやれば、「赤目」と同じように「美旗」という2つの観光地ができて、将来の名張のためには非常に良いことだと思っていますので、財政的な余裕があれば、そういったこともやってもらえればと思います。

(委員)

- ・ 文化的な行政として、これまで名張市では開発により、破壊を行ってきた。最近も、蔵持地区の都市計画道路の建設に際して、古墳が分断されることになったので、今後は文化財を絶対に壊さないというようなことを明確にすることが文化的な行政につながるのではないか。
- ・ 全国的にも価値のある美旗古墳群の活用、黒田庄についても取りあげるべきだと思います。

(委員)

- ・ 「能楽のふるさとづくりプラン」について、能楽堂を建てていただいて、「観阿弥公園」ということになっていますが、能楽堂そのものが欠陥です。また、公園といっても、貧弱なものです。来年は、市の節目の年なので、能を何とかしようと、教育委員会には色々ご指導をいただいているところです。子ども狂言というのをやっておりますが、高等学校に進学すると辞めてしまうので、能楽振興会へつなげる等、定着するようにして、伝統文化の継承をして欲しいと思います。

(会長)

- ・ この計画では、掘り起こしではなくて、定着だというご提案ですが、掘り起こしはもうできているのですか。

(副会長)

- ・ 観阿弥創座の地という歴史的な基盤は、既にあります。子ども狂言は、定着していますので、さらなる継続・発展のためには、クラブ活動なり、総合教育などの学校教育の中に入れることは、大切なことです。

(委員)

- ・ 基本構想 19 頁の「戦略」という言葉は、戦争用語なので好ましくないと思う。別の言葉にすべきだと思います。

(会長)

- ・ まちづくりのなかでは、「戦略」という言葉は、定着していると思います、「戦略」「戦術」というのは戦争用語ですが、他に適当な言葉がないので...、囲碁の「布石」という言葉も同じです。他に何か良い言葉がありますか。

(委員)

- ・ 「変革」とか「改革」に置き換えてはどうか。

(委員)

- ・ 新田へ古墳めぐりに来る人が多く、その方たちが農地を横切るので、農作業のときに嫌な雰囲気になります。そういったことにならないように、廻れるよう道路が欲しいと思います。観阿弥公園や火縄もありますので、それらも併せたルートができると思います。

(委員)

- ・ 伝統文化としては、能楽もあるが、この地域では各地に「獅子舞」があるようですが、若者によって、その伝統文化を継承してはどうか。

(委員)

- ・ 昔は、祭りの際に青年団によって、獅子舞が行われていましたが、今は保存会で獅子舞が行われています。能楽ほどの文化的価値はありません。
- ・ 忍者の方が、能楽よりも観光化しやすいのではないかと。赤目の方で、忍者の振興に熱心な方もいるので、市が支援してはどうか。

(委員)

- ・ 私も、上野から忍者を取り戻そうということを考えています。上野市で忍者議会などが取りあげられているが、元々は忍者の日常性ということで私の提案したものです。

(委員)

- ・ 言葉にこだわるようですが、言葉は全体のイメージを表すので、非常に大事だと思うので、言わせてもらいます。「スロータウン」や「スローライフ」の「スロー」は、どういうイメージで使っているのか。だいたいのイメージはわかるが、「ゆっくり」とか「うるおい」とか、そういうことだと思いますが...

(事務局)

- ・ 「スロー」の明確な定義は、確立していませんが、物質的な豊かさを実現するために、これまで効率性やスピードを追求してきましたが、こうした中で失われてきた人間性やゆとりといった価値を表しています。
- ・ ゆとりとか、心の豊かさを表すもので、元々「スローフード」から生まれた言葉です。

(委員)

- ・ 「スロー」の語訳は、遅いとか、活力がないとか、不活発とかであり、あまり良いイメージを与えない言葉である。「ゆとり」や「うるおい」といった言葉は、理解できないので、表現を再検討するべきではないか。

(委員)

- ・ 「スローフード」は国際語になっており、スローライフ等の表現も充分定着していると思う。

(委員)

- ・ 市長もことある度に「スロー」を発言されており、この表現を変えるのはどうかと思う。

(事務局)

- ・ 「スロータウン」「スローライフ」という自治体の全国組織もあり、かなり定着しており、日本語に戻すとさらにわかりにくくなるので、そのまま使用したいと思います。

(会長)

- ・ 事務局では「スロー」を使いたいということですので、これに代わる良いアイデアがあれば、提案して下さい。

(委員)

- ・ 言葉の流れ、発しやすさを重視しているようにも思うので、「ゆったりとうるおいのある生活のできるまち」というようなイメージが定着しているのであれば、それでよいと思うが、我々のイメージとは異なる「活力のないまち」と思われてしまうのではないか。

(会長)

- ・ 巻末の用語集で、掲載するなどの配慮をお願いします。
- ・ 今日の議論を聞いて、基本構想 12 頁の図の 3 つの基本方向である「人」「自然」「文化」の 3 本柱を貫く形で「なりわい」というものがあっても良いのではとも思います。それが良いかどうかは、また議論を深めたいと思います。
- ・ まちづくりの基本方向で、製造業を中心としたようなニュービジネスの話についても、議論を深めたいと思います。
- ・ まちづくりの“戦略”ではなくて、変革にして、その中のプランについて、議論してきました。本日、出されたアイデアは箇条書きで良いので、事務局にまとめてもらいたいと思います。

(2) その他

(会長)

- ・ 次回の審議会は、12月2日の午後1時30分とします。